'87年ヴェネチア映画祭金獅子賞(グランプリ)
'88年セザール賞7部門独占

さよなら子供たち

ぼくは、あの朝の涙を忘れない。

Au revoir les enfants

監督・脚本・製作:ルイ・マル

'87年ヴェネチア映画祭金獅子賞(グランプリ)　'87年ルイ・デュリュック賞　'88年セザール賞(最優秀作品賞、監督賞、脚本賞、撮影賞、録音賞、美術賞、編集賞)

撮影:レナート・ベルタ　録音:ジャン=クロード・ロルー　編集:エマニュエル・カストロ　出演:ガスパール・マネッス　ラファエル・フェジト

1987年／フランス／カラー／1時間43分／ビスタサイズ／DOLBY STEREO／配給:株式会社 シネセゾン　製作:NOUVELLES ÉDITIONS DE FILMS S.A.／M.K.2 PRODUCTIONS MARIN KARMITZ／STELLA FILM GmbH／N.E.F. GmbH

「その朝に起きたことこそ、自分の処女作の主題にすべきだった」
10年ぶりに母国へ帰還した名匠ルイ・マルが、その朝の記憶を、美しい映画にした。

解説

ルイ・マル監督。「ヌーヴェル・ヴァーグの発火点」ともいわれる、フランス映画史にその名をふかく刻む名匠。その後1977年以来、アメリカに居を移し創作をつづけてきたルイ・マルが、10年ぶりにフランスに帰り撮った作品がこの「さよなら子供たち」である。

久々のフランス映画として、名匠が選んだ作品は、彼自身が「その朝、おそらく私は映画監督になろうとしたのだった。」「この出来事をこそ自分の処女作の主題にすべきだった。」と語る、彼の少年時代の体験に基づく物語だった。ナチス占領下の寄宿学校に暮らす少年たちのピュアな友情と感情のゆれ、そしてナチスの暴戻なユダヤ人政策がおとすくらい陰、きえることのない怖さを、あまり大声でない語り口で語っている。

10年ぶりに母国に帰って製作されたこの作品は、欧州を静かだがふかい感動と、涙で包んだ。1987年、第44回ヴェネチア映画祭金獅子賞（グランプリ）の受賞。さらにフランス本国においてもその年のセザール賞では、作品賞はじめ主要７部門で最優秀賞を受賞している。

ふたりの少年、ジュリアンをガスパール・マネッス、ボネをラファエル・フェジトが演じている。ともに12才、映画初出演。ルイ・マルはこの二人のキャスティングに最も神経をつかった。自分の記憶を呼びおこし、イメージを重ね、何か月もかけひろく公募し、通学路で捜し歩き、難航のすえに決定したという。ボネ役の少年は12才ながらすでに著書をもつ早熟な作家でもある。

繊細だが力を秘めた映像は名キャメラマン、レナート・ベルタ。この作品でセザール賞最優秀撮影賞を受賞している。

ストーリー

「さよなら子供たち。」

ジャン神父がその言葉を残して連れ去られていった朝のことをジュリアンは今も鮮明に覚えている。

それは40年以上の前の朝だった。1944年。フランスはナチスの占領下にあった。12才の少年ジュリアンは、フォンテーヌブローの寄宿学校の生徒。クレバーだが、時々おねしょをしてしまう、まだまだママにあまえていたい年頃の可愛い子供だった。

ジュリアンにとって、同じクラスに転入してきたジャン・ボネは気になる存在になった。成績はいいし、ちょっと謎めいている。ある時、ジュリアンは彼の本を盗み見してしまう。そこにあった「キベルシュタイン」という署名がさらに謎をふかめていくようだった。

占領下の寄宿学校というデリケートな社会のなかで、ふたりの少年は多感な日々を過ごした。わざとユダヤ人をからかうようなことを言い、争った。父兄参観日に、両親の来ないボネを家族との食事に誘った。夜の森に迷いこんだ。音楽室のピアノで大人びたジャズの曲を弾いた。深夜、隠れて艶っぽい物語も読んだ。無邪気な男の子が大人の世界の入口に小さな指をかけている、そんな日々のなかでいつも消えることのなかった不安が、ある日、彼等の小さな社会を襲った…。

[キャスト]

ジュリアン　ガスパール・マネッス

ボネ　ラファエル・フェジト

カンタン夫人　フランシーヌ・ラセット

フランソワ・カンタン　スタニスラス・カレ・ド・マルベール

ジャン神父　フィリップ・モリエ　ジュヌー

監督　ルイ・マル

1932年、フランスの大ブルジョア家庭に生まれる。25才の時に「死刑台のエレベーター」でデビュー。ジャズ・トランペットを使うといった新しい感覚で映画ファンをうならせた。その後も自由な表現と美しい映像はつねに評判となっている。女優・キャンディス・バーゲンと再婚し、77年以来アメリカに在住、「さよなら子供たち」で仏映画界に復帰した。

[主な作品]

1957年「死刑台のエレベーター」1960年「地下鉄のザジ」1961年「私生活」1963年「鬼火」1970年「好奇心」1974年「ルシアンの青春」1978年「プリティ・ベビー」1980年「アトランティック・シティ」

撮影　レナート・ベルタ

日本ではダニエル・シュミット映画のキャメラとして艶のあるエレガントな映像が有名。スイス・ニューシネマ興隆の立役者であり、近年は居をパリに移し、フランスでもひっぱりたこの活躍で、フィルモグラフィーは70本に及ぶ。

[主な作品]

ダニエル・シュミット「ラ・パロマ」「ヘカテ」「テ　ジャ　ヴュ」アラン・タネール「ジョナスは2000年に25才になる」ゴタール「勝手に逃げろ／人生」エリック・ロメール「満月の夜」

Au revoir les enfants

さよなら子供たち

12月上旬よりお正月ロードショー！

二館共通特別鑑賞券1,200円
（当日一般1,500円・学生1,300円）

特別鑑賞券は都内各プレイガイド、チケット・セゾン、チケットぴあ、セゾン系各劇場他でお求め下さい。

シネセゾン渋谷

渋谷道玄坂ザ・プライム６階☎03(770)1721●自由席定員制・入替制

連日	12:00	2:20	4:40	7:00	土のみ9:10

銀座テアトル西友

銀座線京橋駅下車（旧テアトル東京跡）☎03(535)6000

連日	12:30	2:40	4:50	7:00	金・土のみ9:10